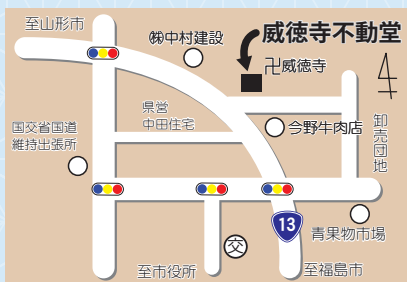




▲正面の龍の彫物と「来振山」の山号額



城下町 ふらり 歴史探訪

第20回

いとくじ 威徳寺不動堂 (中田町)

新年あけましておめでとうございませう。今年は酉年という事で、酉年生まれの守本尊である不動尊を祀る、中田町の威徳寺不動堂を紹介します。

箱根・越前を経て 米沢に来た本尊

威徳寺に伝わる不動堂開基縁起によると、本尊は智証大師(平安時代の天台宗の僧・円珍)の作で、当初は伊豆箱根の護摩堂に安置されたと言います。仇討ちで有名な曾我五郎(幼名は箱根王)が、幼少の頃に父の仇「工藤」と「不動」を聞き間違つて斬り付けた不動尊という逸話も伝わっています。

その後、越前国(福井県)の性海寺、更には来振寺に移りました。応永年間(1394~1427)、威徳寺12世の聖応和尚が諸国を巡礼した際、この不動尊に出遭い深く帰依し、越前から米沢へ勧請したと伝えられています。

上杉家も深く信仰

江戸時代、靈験ある不動尊として領主の上杉家からも篤く信仰され、2代藩主定勝が堂宇を造営、延宝2年(1674)には4代藩主綱憲が再建したと言います。現在、綱憲が再建した際に納められた立派な棟札と、文政7年(1824)に11代藩主斉定が再建した時の棟札が残っています。

また、弘化3年(1846)の再建棟札もあり、現在の不動堂はこの年に

建てられたものと思われます。この他、拜殿・楼閣・廊下や石鳥居等の造営に關わる棟札も多数確認され、往時は大規模な伽藍であったことが伺えます。

不動尊にまつわる伝承

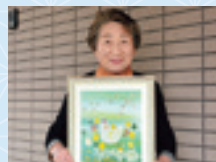
江戸時代に記された「米沢地名選」などの地誌書には、威徳寺不動堂の由緒や伝承が記されています。その一つが不動尊に踏まれた鼠の伝説です。

ある年のこと、不動尊に新しい御戸張(米沢では「おみとちよう」と呼ぶ。石宮や厨子の前に掛ける赤色や白色の布・帳)を掛けたところ、一夜にして鼠が半分噛み切っていました。住職は、毎日ご祈祷しているのに、余りにも情けない不動様と嘆いたところ、翌日には右足で鼠一匹を踏み、左手に鼠一匹を掴んだ姿で立っていました。その鼠二匹は箱に入れ保存されたと言います。もう一つは火伏靈験の伝承です。仙台の町家に旅の僧が立ち寄り、火伏の札を作り渡しました。その札は火鉢の上でも燃えなかつたと言います。

その後、仙台城下で大火が起きた際、その町家の手前で火が止まりました。町家の主人は靈験に感激し、僧が出羽米沢の中田の威徳寺と名乗っていたので、中田まで御札に参りました。ところが、威徳寺住職と旅の僧は別人でした。仙台での出来事を話し、旅の僧は不動尊の化身であったと分かり、不動堂に参詣して帰ったと言います。

『なかよしこよし』 制作者の松木さんからコメントをいただきました。

「今年も古いも若きも仲良く喜んで歩むことができますように」と願いを込めながら作らせていただきました。作品は全て草花でできています。親鳥はノースポール、ひよこはパンジー、卵は白バラを使い、初雪草、イエロークロサイト、啓翁桜、四葉のクローバーを飾りました。



表紙
紙説
解